

# 令和3年度 算数・数学教育研究部会（読書会）報告

第4回

令和3年10月19日（火） 午後5時30分～ 場所：総合学習センター  
教育論文の書き方・まとめ方  
講師：葵中学校 神谷尚希先生

## 教育論文の書き方について

なぜ、教育論文を書くのか？→目の前の子供のため、自分自身の成長のため  
まずは実践が大切である。

**実践なくして論文なし 理論なくして研究なし 検証なくして成果なし**

論文では、「教材を教える」のではなく、「教材で教える」ことが大切である。



## 論文の書き方（理論部分）

序論 5～10%，本論 80～85%，結論 10～15%が目安になる。主題は、論文の顔になるため、簡潔で的確なものにするとよい。また、主題設定の理由は社会の実情に基づき、目の前の子供たちに今必要な力を身につけさせたいという願いを書くとよい。目指す子供像、仮説、手立ては整合性があるようつながりを意識する。

## 論文の書き方（実践部分）

実践の3本柱は、①事実と考察②客観的・具体的③資料の活用・引用である。教師が講じた手立てによって、子供がどのように変化していったのか、資料を用いて提示する。学習記録、ワークシート、対話記録、教師メモ、授業記録などが挙げられる。写真は子供の変化が伝わりにくいため、使用する際には注意が必要がある。

## 論文の書き方（考察部分）

仮説・手立てをもとに、手立ての有効性と仮説が妥当であったかどうかを述べる。成果と今後の課題について書くようにする。

よい論文は、子供を前面に出し、子供を大切に書いた論文である。また、趣旨が明確で整合性のあるものになっているとよい。

## 質疑応答

- ・目指す子供の姿は毎年変化するのか、それとも同じようなテーマで研究を行っているのか。  
⇒人にもよるが、目の前の子どもたちの課題について考えているため、毎年変わっている。
- ・手立てが思いつかない場合、どのようにするとよいか。  
⇒先輩に聞いたり、文献を参考にするとよい。特に、算数・数学部実践論文集がおすすめ。
- ・期限のどれくらい前に完成させて、推敲するとよいか。また、どのように推敲するとよいか。  
⇒2週間前くらいに完成させて、推敲するとよい。論文の整合性を整えるためには、ペンで線を引き、つながりを見るとよい。

## 算数・数学部新任紹介

本年度、新型コロナウイルスの影響で歓送迎会が中止になったため、読書会の中で新任の先生方の紹介を行いました。本年度は10名の先生が岡崎市の算数・数学部の仲間入りをしました。これから、ともに切磋琢磨し岡崎の算数・数学教育の発展のためにご尽力いただけることを期待しています。

## 新任の先生方

男川小 長尾 有真先生 美合小 森田 由梨奈先生  
六名小 戸林 瑞貴先生 山中小 大野 里佳先生  
常磐南小 佐藤昌範先生 城南小 大脇 里紗先生  
六ツ美中部小 葛谷航貴先生 東海中 手島 萌乃先生  
矢作中 服部 愛絵里先生 矢作北中 小出 達也先生

今回は他教科の先生方にもご参加いただき、論文の書き方について学びを深めることができました。実践例を用いながら分かりやすく丁寧にご指導いただき、論文を書いてみようと思欲をもつことができた先生も多くいたのではないのでしょうか。

次回の読書会は、愛知教育大学の青山和裕先生をお招きし、今後の統計教育についてご講話いただきます。今後も多くの先生にご参加いただき、有意義な会にしていければと思います。